

ダイジェスト 一般質問 Digest

9月定例会では17名の議員が登壇しました。行政評価外部評価、新幹線対策、観光振興策、本町アパート・市民交流プラザなど質問内容は多岐にわたりました。



防犯・防災

本年度修正の本市の地域防災計画について

三浦 正司議員

Q 本年度の長崎県地域防災計画は、応急対策、災害予防の点から11項目が修正されたが、本市の計画においては、これらごどのように反映され、修正されたかを具体的に説明されたい。特に県の提言書で明らかにされた大村一諫早北西付近断層帯の取り扱いと、本断層帯の活動に連動する液状化を分析・検討し、どのように反映するか。

A 県による修正内容を十分に精査し、本市の地域防災計画を修正すべく取り組んでいるところである。断層帯については、図面の表示があいまいであるので、市の計画においては明確な図面を掲載したいと考えている。液状化対策については、専門家を入れた検討委員会などを設け検討しなければならない時期にきている。

自主防災組織の定期訓練への助成をすべき

里脇 清隆議員

Q 自主防災組織はほとんどが町内会単位で結成されているが、現在結成している自主防災組織68組織のうち、5年以上も訓練を行っていない組織が41組織もある。町内会の役員や班長も交代していく中で定期的な訓練も必要である。組織の結成だけではなく、定期的な訓練の奨励に向けて運営費の助成措置の予算化もすべきだ。

A 自主防災組織は現在68組織、42・8%で、地域は自分で守るといふ観点から、もっと増やしていきたいと考えている。訓練については消防署、消防団、安全対策課も出向いて応援を行っており、年に一回は実施していただきたいと思っている。訓練にかかる費用の助成についても検討したい。

消防団の本格的な訓練施設の整備を求める

里脇 清隆議員

Q 消防団は機材の整備を初め、ごろごろ時のために日頃

から訓練を行っているが、実際に放水を行う訓練場所もなく、また、毎年行われる県下のポンプ操法大会、市内のポンプ操法大会に向けての訓練場所の確保も難しい状況である。放水訓練は重要な訓練であり、水の確保ができる専用の訓練施設の整備を求める。

A 消防団の実践的な訓練場所が毎年転々とした場所で行われていることは問題であり、一定の場所が必要だと感じている。訓練場の整備については消防団からの要望もあっており、また、団員の消火活動における技術向上にも寄与できる。吉岐市など他市の施設を参考にしながら2、3年以内には取り組みたい。



福祉・医療・保健

乳がん検診の取り組みについて

伊川 京子議員

Q 乳がんの早期発見、早期治療を促す取り組みとして、40歳から60歳までの間の5歳刻みでマンモグラフィー検査を受けられるクーポン券が送付されている。平成23年度のクーポン券利用